

海外移住 資料館 だより

Japanese Overseas Migration Museum News No.45

2017
Spring

日本人の海外移住は100年以上の歴史があります。

JICA横浜 海外移住資料館では、海外へ移住し、それぞれの国や地域で新しい文明作りに参加してきた日本人移住者の歴史と、その子孫である日系人について広く理解を深めてもらうことを目的に、さまざまな資料を展示しています。

■発行元：JICA横浜 海外移住資料館
神奈川県横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜2階
Tel:045-663-3257(代) URL:<http://www.jomm.jp/>
■編集発行人：JICA横浜 海外移住資料館 館長 朝熊由美子

企画展示

広島から世界へ

—移住の歴史と日系人の暮らし—



自身のルーツ広島への理解を深める青年招へいプログラム 提供：広島県



ペルーの日本人商店 (1910年代)
提供：白川喜美子
所蔵：広島県立文書館



移民会社の海外興業株式会社がブラジル移住を呼び掛けるマッチ。表に「さあ行かう一家をあげて南米へ」、裏に「ブラジル行募集」と書かれている
所蔵：広島市(森矢久男氏、シズ子氏寄贈)

広島から世界へ - 移住の歴史と

3月4日(土)～5月28日(日)

広島は、全国第一位の移民送出県です。戦前戦後あわせて約11万人がハワイに始まり、アメリカ、カナダ、メキシコ、ドミニカ共和国、ペルー、ブラジル、ボリビア、パラグアイ、アルゼンチンへ移住しました。一世紀以上が経った現在、世界各地で広島にルーツをもつ日系人が活躍しています。

当資料館では、広島県の移住の歴史や海外広島県人会との交流、各国での生活の様子を紹介する企画展示「広島から世界へ - 移住の歴史と日系人の暮らし-」(協力:広島県、広島市、広島県立文書館、広島市公文書館)を3月4日(土)から5月28日(日)まで開催します。

ハワイから始まった海外移住

広島県からの海外移住は、ハワイへの官約移民から始まります。

官約移民とは、ハワイ王国政府と日本政府の間で、渡航や労働に関する協定が結ばれ、3年契約でサトウキビ畑などの労働者として送り出された移民のことです。この制度のもと1885年から94年まで26回にわたり、約29,000人がハワイへ渡りました。

官約移民の募集は、全国的に行われましたが、広島・山口・熊本・福岡の4県からの応募が多く、なかでも広島県からの渡航者は、約11,000人で、全体の3分の1以上を占めていました。

官約移民は、出稼ぎ労働者で永住を目的にはしていませんでした。賃金は、男子が食費を含め1カ月15ドル、女子10ドルで、当時の賃金水準から見れば、かなり高額でした。*

第一回の官約移民募集人数600人に対し、28,000人の応募があり、944人がハワイへ渡りました。広島県からの移民は222人で山口県の420人に次ぐ数でした。

移民は稼いだお金を郷里に送ったり、持ち帰ったりしました。1891(明治24)年の広島県の調査によれば、ハワイ在住の広島県移民の送金額は約27万円で、同じ年の広島県予算額の54%にあたります。

ハワイで成功したという話や移民の送金によって家や用地を購入したという話が広まるようになると、親戚や同じ郷土の出身者を頼って移住する人が増えていきました。

広島県人は「真面目によく働く」と評判になり、1887年の第四回官約移民の募集では、ハワイ側から「広島と山口の2県から男子1,100人、女子275人、身体健全、純粋な農夫で年齢25歳前後のものを選んで渡航させてほしい」と要請がありました。

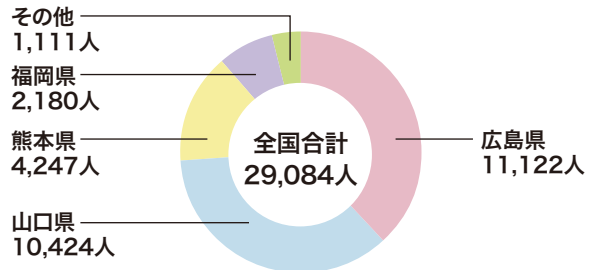
*当時の15ドルは日本円でおよそ15円。これは広島での農業労働者(小作)男子の月給1円50銭の約10倍にあたる高い収入でした。

都道府県別移住者統計

順位	都道府県	移住者数(人)
1	広島県	109,893
2	沖縄県	89,424
3	熊本県	76,802
4	山口県	57,837
5	福岡県	57,684

(JICA横浜海外移住資料館)

県別官約移民人数(1885～94)



出典:『日系移民・海外移住・異文化交流の今昔』

移民県広島の源流となった官約移民

川崎 壽 ひろし ハワイ移民資料館 仁保島村館長



広島県からの官約移民が全国第一位となった最大の要因は、県や市町村が窓口となって移民の募集をしたことです。

官約移民の募集は、ハワイ王国総領事ロバート・W・アーウィンが中心となって進められました。アーウィンは全国府県地方長官会議代表の東京府知事に手紙を送り、「各県にハワイ移民の募集に協力するよう呼びかけてほしい」と依頼しました。各県の反応はさまざまでしたが、広島県令(県知事)は積極的に取り組みました。

広島県では、特産の「安芸木綿」が外国からの安価な綿花輸入などの影響で、規模の縮小や廃業を迫られ、その上、地租改正による納税負担が農民を苦しめていました。

県は打開策のひとつとして、北海道への開拓移住を奨励していました。1882(明治15)年から84(明治17)年の3年間で、広島から約1,500人が北海道へ移住。その数は全国で上位三位に

日系人の暮らしー



ハワイから北米、そして南米へ

1898年、ハワイがアメリカに併合されると、ハワイから転住する人などを含め、アメリカ本土への移民が急増しました。アメリカの移民は、農業をはじめ、雑貨店や製造業、ホテルや食堂のサービス業など、さまざまな職業に進出していきました。

1899年には南米ペルーへの第一回移民船「佐倉丸」が出航し、790人の乗船者のうち、176人が広島からの移民でした。この数は、新潟や山口に次いで多く、全体の22%を占めていました。

ブラジルには、1908年の第一回移民船「笠戸丸」で移住した42人を皮切りに、戦前戦後を通じて約14,000人が広島から移住しました。



広島県人会の催し(1966年)

カリフォルニア州サクラメント

寄贈者:土手朝登 所蔵:広島市

「がんす軒」の文字が見える。「～がんす」は「～です」を意味する広島弁。最近ではあまり使われなくなったが、安芸地方の特徴的な方言だった。

(広島市デジタル移民博物館より)

第二次世界大戦で中断していた海外移住は、1952年のブラジルへの移住をきっかけに再開され、パラグアイ、アルゼンチン、ボリビアなど南米を中心に行われました。

1956年には、県東部の沼隈町(現福山市沼隈町)が町主導で、パラグアイへ集団移住を行い、「町ぐるみ移住」として話題になりました。

沼隈町は当時、人口が過密する一方、耕作面積が小さい上に発達した産業がなかったため、その打開策として海外への移住が計画されました。

1955年、町村合併により誕生した沼隈町の初代町長に、沼隈で1903年に創業した神原汽船二代目社長の神原秀夫社長が就任。神原町長は、就任早々、移民船で南米を視察調査し、パラグアイのフラム(現ラ・パス)移住地への集団移住を推進したのです。

フラム移住地への集団移住第一陣6家族36人は1956年10月に出発し、その後58年12月まで12回にわたって130家族415人が移住。そのうち沼隈町からは、24家族83人が移住しています。



サンパウロ州カフェランジアのコーヒー農園(1928年)

寄贈者:伊藤定 所蔵:広島市

広島出身の寄贈者は1928年にブラジルへ渡り、コーヒー農園の労働者として働いた。写真に写る弟のスボンと妻の前掛けは、日本から持参した母の手織りの木綿着から作った。

5年間の契約を終えてからは、野菜や苺などの栽培を手がけ、その改良やマニラ麻、製材として利用価値の高いクスノキなど新栽培物の研究に努めた。また、パラナ州ロンドリーナに耕耘機などを扱う伊藤モーター合資会社を設立した。

(広島市デジタル移民博物館より)

入るほどでした。

そこに飛び込んできたのがハワイへの出稼ぎ話です。県民生活の有効な救済策となり、県の歳入も確保できると考えた広島県は、北海道移民の募集に関する知識を生かし、市町村役場を窓口として、ハワイへの移民を募集したのです。

ハワイでの収入は日本の7~8倍になるという夢のような話と、市町村役場が募集の窓口だったことが安心材料となって、たくさんの応募者が集まりました。

また、血縁関係者や地域の人々がまとまって移住したことも大きな特徴です。現地で強い結束力が生まれ、結果として脱落者が少なく、勤勉な県民性とも相まって、経営者から歓迎されました。これらのことが労働期間の延長や地縁、血縁者の紹介につながり、広島県からの移民がますます増えていったのです。(談)

※明治政府が行った「土地制度・租税制度」の大改革。

川崎館長に官約移民についてお話していただきます!

公開講座「ハワイ移民の源流 広島県」

●5月13日(土) 14:00~15:30 JICA横浜1階 会議室1



ペルー広島県人会野球部(1930年代)

寄贈者:千葉玉人 所蔵:広島市

ペルーでは大正末期から昭和初期にかけて、次々と日系人によるスポーツクラブが結成され、野球、陸上、剣道などが盛んに行われた。広島県人会運動部も1927年に設立された。強豪だった広島チームは「グレート広島」と呼ばれていたという。

(広島市デジタル移民博物館より)



広島市デジタル移民博物館

当資料館ホームページからアクセスできます!

当資料館では広島市と連携し、「広島市デジタル移民博物館」を開設し、広島出身者を中心とする方々から寄贈された資料をデータベースとして公開しています。

移住者の写真や使用した道具などから、当時の移住者の生活を垣間見ることができます。



南加広島県人会による大原博史広島県知事歓迎会(1956年)
大原知事はブラジルとアメリカを訪問し、県人に移住希望者の受け入れを依頼した
提供:八幡藤三
所蔵:広島県立文書館

広島県と在外広島県人会のつながり

1945年8月31日のニューヨーク・タイムズに、日系二世のジャーナリスト、レスリー・ナカシマが被爆直後の広島の様状を書いた記事が掲載されました。故郷広島の困窮を知ったハワイや北米、南米などの広島県人会からは、多額の救援金が届けられました。

ハワイでは広島県出身者が中心となって1947年4月に広島戦災救済会を結成。募金活動は50年2月まで続けられ、総額はおよそ11万ドル(3,960万円)※となりました。救援金は原爆被災者など生活に苦む人々への生活費の支給や、母子寮、養老院の建設などの復興資金にあてられました。

ロサンゼルス以南の南加広島県人会からは400万円が送金され、その資金で1952年に広島市に児童図書館が建設されたほか、ペルーの県人会からも140万円が送金されました。



日本祭りに参加したアルゼンチン広島県人会の屋台
提供:広島県

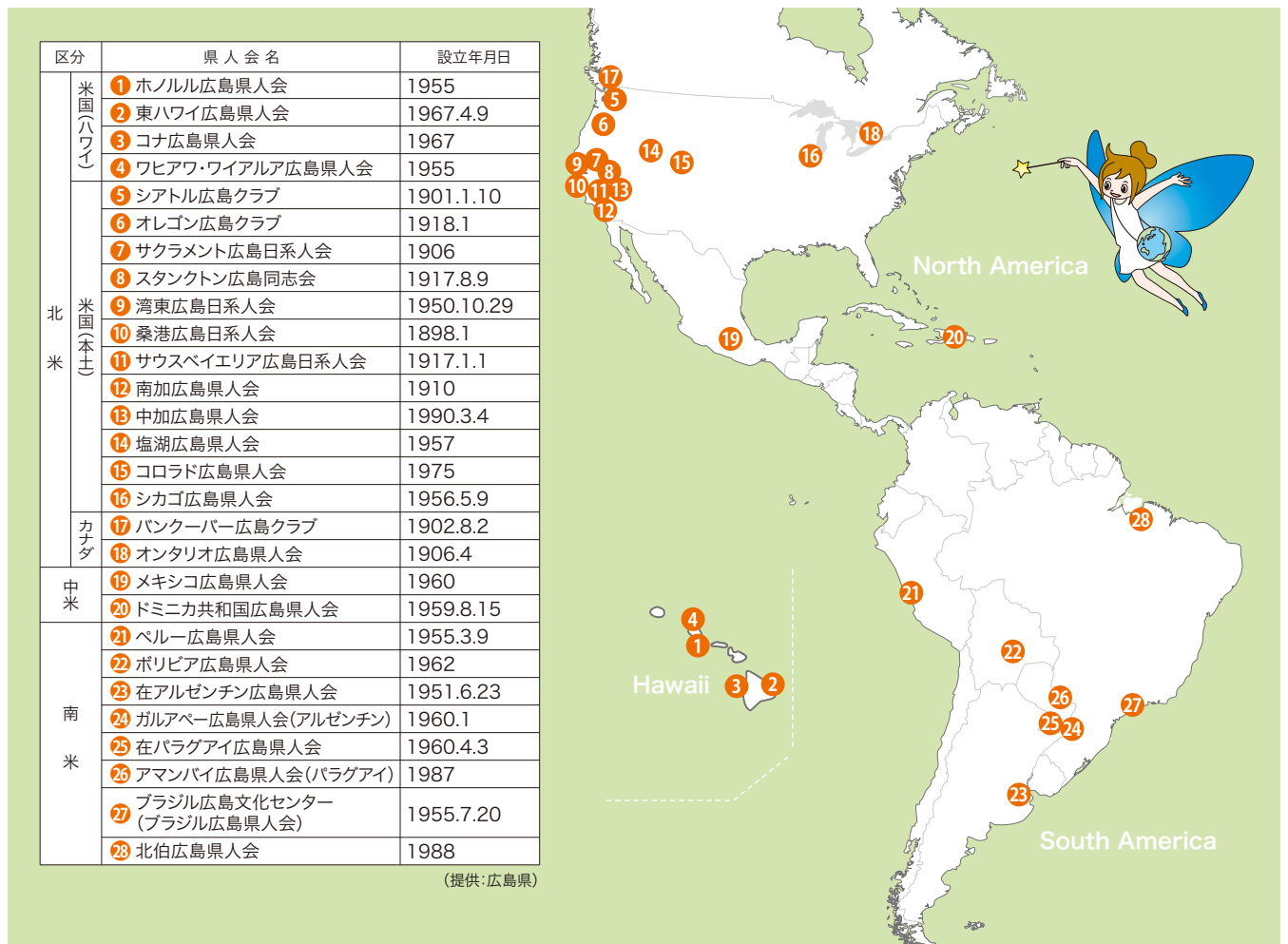
現在、ハワイ、北米および中南米で、9カ国に28地域の在外広島県人会が組織されています。広島県は、海外における重要なネットワークである在外広島県人会が主催する記念行事への訪問団の派遣や、県人会子弟の広島への招へいなど、さまざまな交流事業を実施しています。

2014年8月20日に広島土砂災害が発生した際には、ハワイ広島募金委員会、南加広島県人会およびブラジル広島文化センターから、多くの義援金が寄せられました。

※1949(昭和24)年4月25日から1ドル=360円の単一為替レートが実施されました。
1948(昭和23)年当時の小学校教員の初任給は月額約2,000円でした。



広島市児童図書館の開館 提供:中国新聞社(1952年12月)



パラグアイに日本の城を建設 広島県出身の前原弘道さん

南米パラグアイの首都アスンシオンから南東約30キロのイタ市に住む広島県出身の前原弘道さんは、所有する農場の敷地内に日本の城を建設。御影城(通称前原城)と呼ばれる城は、着工から約10年の歳月をかけて2005年に完成しました。なぜ城を建てたのか、そのきっかけなど、前原さんにお話を伺いました。



●前原弘道
1937年生まれ。広島県福山市出身。1958年、20歳の時、父の深さんとともに、家族7人でパラグアイへ移住。フラム(現在のラ・パス)移住地へ入植後、首都アスンシオンへ移転。養鶏業をはじめとする前原グループ5社の会長。パラグアイ日本人会連合会会長を務める。

岩山にそびえ立つ御影城

日本の城を建てることになったきっかけは？

もともと父が、日本文化の象徴である城をこの地に残し、南米にやってきた日本人が頑張っていることを広く伝えたいと、「お城を建てる。建てたい」と夢を語っていました。その父が1995年に突然、事故で亡くなってしまったのです。「生きていうちにお城を建ててやればよかった」と後悔し、なんとしても父の夢をかなえたいという気持ちが強くわいてきたのです。

でも、治安が悪いパラグアイで、お城のように目立つものをつくるのは危険です。迷いに迷ったのですが、「亡き父の夢を実現したい」という気持ちが勝りました。

城を建てるにあたり、一番苦労したことは？

南米には築城の技術者も宮大工も、建築会社も存在しません。そのため日本から宮大工を呼び寄せ、瓦も日本から取り寄せました。

工事は足かけ10年、正味5年ほどかかりました。宮大工には計3回パラグアイに来てもらって8カ月ほど作業をしてもらいました。瓦は西日本一帯の城と同じ愛媛県の菊間瓦を使用しました。屋根は、福山城のふき替えを経験したことのある職人がふいたものですから

本物です。

城が完成して感じたことは何でしょう？

完成したお城を眺めていると、「どうして、このような城ができあがったのだろうか」と、自分でも不思議に思えてきます。

御影城は「正真正銘の日本の城」です。築城にあたっては、戦後、日本の城の復元の半数以上を手がけた東京の構造設計会社に依頼しました。千葉県館山城、愛媛県川之江城と同じ設計です。

海外で、これほど本格的な城が存在するのは、ここだけです。本物の日本の城の建築が、パラグアイで実現できた事は奇跡です。パラグアイの魅力になると確信しています。よくぞ、これだけの城が建てられたと感無量です。

当資料館では、企画展示関連イベントとして、「パラグアイの魅力」と題した公開講座を開催し、前原さんに広島県人移住者のこと、築城のことについてお話していただきます。

●4月22日(土) 14:00~15:30 JICA横浜1階 会議室1

わたしたちの ルーツは広島！

JICAでは、海外の日系人子弟を対象に、日本の学校への体験入学、ホームステイなどを通じて、日系人としてのルーツを知り、アイデンティティを確認する「日系社会次世代育成研修」を行っています。今年1月に来日した、広島にルーツをもつ研修員3人に、家族のこと、広島のことを聞いてみました。



菊江 フリオ ファクンドさん

(アルゼンチン・マルティンアメリカ市/日系三世、15歳)

僕のおじいちゃんは、戦後、広島から移住して製材所で働いていました。広島は、おじいちゃんが生まれたところと聞いて、もっと知りたいと思いました。僕は日本に来たのは初めてなので、この研修でいろいろな体験をしています。日本の友達もたくさんできました。いつか、広島へ行ってお好み焼きを食べてみたいです。おじいちゃんたくさん話をしたいので、日本語をもっと勉強しようと思います。



パゾト カルメラ すえみさん

(ブラジル・サンパウロ市/日系四世、15歳)

私のおばあちゃんが広島出身です。おばあちゃんは去年、亡くなってしまったので、もう広島の話聞くことはできません。でも、今年、私たち家族は広島県人会に入会したので、これから県人会の行事に参加して、もっともっと広島のことを知りたいと思います。将来は、日本の大学でエンジニアの勉強をしたいと思っています。そして、いつか広島原爆ドームを訪ねたいです。



竹花 ラリッサ 理奈さん

(ブラジル・ベレン市/日系三世、14歳)

私のおばあちゃんは、16歳の時に「あめりか丸」で広島からブラジルへ移住し、同じ船で移住したおじいちゃんと結婚しました。私は、おばあちゃんが作ってくれるあんこのお餅が大好きです。今まで、おばあちゃんに広島のことを話してもらったことはあまりなかったけれど、ブラジルに帰ったら、いろんなことを聞いてみたいと思っています。将来の夢は、医者になることです。



Topic-1 日本オリンピック・アカデミー(JOA)のフォーラムで資料館企画展の開催報告を行いました

1月28日、東京都内で開催されたJOA研究委員会フォーラム(NPO法人JOAオリンピック研究委員会、ファッションスタディーズ共催)で、昨年7月から9月に開催した当資料館の企画展示「二つのオリンピックスポーツがつないだ日系社会」の開催報告を行いました。

フォーラムには、JOA、ファッション業界、広告業界関係者など53人が参加。当資料館の小嶋茂学芸担当が、日系社会でのスポーツの役割、海外の各種スポーツにおける日系人の貢献、過去の日系オリンピックなどについて発表したほか、昨年開催されたリオデジャネイロオリンピックに出場した日系選手や、オリンピック



フォーラムの様子

のマスコットやトーチのデザインを手がけた日系人の活躍についても紹介しました。

Topic-2 福岡県海外移住資料展「ルーツは福岡 夢は世界へ～世界で活躍する福岡移民～」

当資料館で昨年3月から6月に開催した企画展示「ルーツは福岡 夢は世界へ～世界で活躍する福岡移民～」の巡回展(公益財団



コムシティで開催された資料展

法人福岡県国際交流センター主催)が、昨年9月から今年1月にかけて、福岡県内5カ所で開催されました。

資料展では、1885年のハワイへの移住に始まった福岡県からの海外移住の歴史や9カ国21地域に広がる福岡県人会の活動のほか、世界で活躍する福岡県人を紹介するパネルを展示。1月7日から27日まで、北九州市のコムシティ内マーメイド広場で開催された資料展には、期間中、約11,000人が来場しました。

海外移住資料館周辺マップ



- 開館時間 10:00～18:00(入館は17:30まで)
- 休館日 月曜日(月曜日が祝祭日の場合は翌日)、年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料 無料

アクセス

- みなとみらい線
「馬車道」駅(4番出口)から徒歩約8分
「みなとみらい」駅(クイーンズスクエア方面改札)から徒歩約15分
- JR線・市営地下鉄
「桜木町」駅から(汽車道→ワールドポーターズ→サークルウォーク)徒歩約15分

企画展示関連イベント 入場無料・予約不要

公開講座

パラグアイの魅力

講師 前原 弘道

パラグアイ日本人会連合会会長

4月22日(土)

14:00～15:30 JICA横浜1階 会議室1



公開講座

ハワイ移民の源流 広島県

講師 川崎 壽

ハワイ移民資料館 仁保島村館長

5月13日(土)

14:00～15:30
JICA横浜1階 会議室1

